

平成26年度事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日)

公益社団法人府中町シルバー人材センター

我が国経済は、東北大震災からの復興需要や大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略による一体的な取り組みの下、個人消費などの支出増加が生産の増加につながり、それが雇用・所得の増加をもたらすという実態経済の動きが出始めました。

一方、就業状況は少子高齢化により、就業者数が減少していくと推計されています。働く高齢者や女性を増やし、労働力の減り幅を大きく圧縮することが求められています。

こうした背景の中、シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）は、「生涯現役社会」として高齢者の方の活用がますます重要となっていますが、景気が上向きながらも、シルバー事業にその兆しが見えてきていません。

シルバー事業に係る補助金は、前年度より1,509,070円の増額で、府中町からは高齢者採用の person 費1名分の半額を補助していただきました。

会員数は、団塊の世代が雇用延長や継続雇用が過ぎる65歳になり、シルバー事業の普及啓発などが功を奏して増強されましたが、新規の就業拡大は依然として厳しい状況にありました。

シルバー人材センターは、一層の事務の効率化や支出の削減及び会員増強、就業開拓等に力を注ぎました。

その結果、受注件数と契約金額とも前年度より若干ではありますが、上回ることができました。このことは、発注者の皆様に喜んでいただけるよう、会員が一丸となり就業に取り組んできた結果であり、誠に喜ばしい限りでありました。

今年度は当期経常増減額の単年度ベースで1,856,626円のプラスに転じ、前年度より1,469,402円のプラスになりました。この増加した正味財産については、収支相償の考え方にに基づき、公益目的事業保有資産の取得（車輛運搬具1台）及び事業費として特定費用準備資金積立（先行投資が必要な椿庵の調理器具）をします。

受託事業収益は154,469,316円で、会員・役職員の努力により、前年度と比較して2,860,161円増額になりました。

当センターは、この1年間、「不特定多数の者の利益に供する公益事業者」と

しての事業展開を行政機関のご指導・ご支援の下、社会福祉協議会や町内会連合会等各種地域団体及び民間企業等とともに連携し、地域社会で、貢献の実現を目指すとともに、公益法人の目的である「定年退職者等の高齢者の希望に応じた就業の機会を確保し、会員の能力を生かした就業その他の多様な社会参加活動を援助して、会員の生きがいの充実と福祉の増進を図るとともに、活力ある地域社会づくりに寄与する」に主眼におき、高齢者が希望する様々な就業機会に応えられるよう努力してきました。

また、平成26年度末で第二次中期計画が終了することになり、第二次中期計画を検証したうえで、会員等意識調査を参考にし、経済福祉分野の外部有識者のご意見をいただきながら、平成31年度末を目標にした「第三次中期計画」を策定し、この計画を指針として、効率的な事業運営に努め、高齢者が就業を通じて生きがいの充実を図り、活力ある地域社会づくりを目指すこととしています。

シルバー人材センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」に基づき、つぎのように取り組みましたので、ご報告申し上げます。

(1) 事業運営の基盤強化

理事及び理事会については、公益社団法人への移行によりその職務権限・責任が明確化され、理事の積極的、主体的に事業への参画を求め、就業開拓や要望などを一丸となって行ってきました。

役員のシルバー事業運営の研修等により知識を習得してもらい、組織運営への理解を深めていただきました。事務局については、各職員の資質能力向上と日常の業務処理の迅速化、効率化を求め、県連合等の研修会・講習会に積極的に参加し、資質の向上に努めました。

また、会員にはシルバーの基本理念の再認識をしていただき、班長会議、職種班毎のミーティングなどで会員相互の連携、意思疎通を深めるように努めてきました。

特に、独自事業を拡充するなど、自主財源の確保を図るとともに、経費の節減に取り組みました。

(2) 安全・適正就業の確保

シルバー事業の運営にあたって安全就業の確保は、何よりも最優先されます。今年度も安全巡回指導・パトロール、公共施設等事務代行（管理業務）に係る研修会の実施、普及啓発活動を実施し、具体的には夏場の熱中症回避のための巡回指導、就業中の会員への現地指導や安全就業スローガン職の設置など、事故防止対策と安全就業に対する意識の高揚を図りました。

こうした努力にも拘わらず事故が10件と、昨年度に比べて7件増加しました。主なものとして、草刈の就業中に、小石の飛散などによる賠償事故や車両事故が2件、また、就業中にセンター車両とバイクの接触による転倒による人身事故など2件が発生し、事故はいずれも就業中で、安全確認を怠ったの不注意、慣れ、過信によるものと推測される事故であり、引き続き重点的に啓発や指導など、安全就業への取り組みについて指導しました。

また提携医等が実施する健康診断・健康相談の受診を義務づけるとともに、健康管理についての意識の高揚に努めました。

就業先の確保は、会員に対する就業機会の公平及び就業機会の適正な分配を図る上で重要な要素です。就業のミスマッチが就業率の低下につながるのを、会員と個別面談し、ローテーション就業を強化し、就業希望する会員にワークシェアリングすることを推進し、就業の均衡に努めました。

(3) 会員(特に女性会員)の増強

会員数は雇用延長などの要因で大きな増加は見込まれませんが、団塊世代が65歳に到達後、絶好の機会と捉え、入会のための啓発や入会者が魅力を感じられるような環境づくりと工夫を凝らし、会員又は理事などの努力により県下の他のセンターでは減少傾向にも拘わらず、当センターの会員数は3月31日現在362人で、前年度同日と比べて6人、約1.7%増えましたが、女性会員については昨年度より1名増に留まりました。

(4) 独自事業の促進

「企画提案事業」として、くすのきプラザコミュニティサロンの企画運営事業(つばき庵)、子育て支援事業(野外での児童の一時預かり)、介護予防事業として、シルバーサロン(男性専用介護予防のメンズサロンを含む、筋力向上トレーニング、お達者クラブ)に対するメニューを充実させ、就業実人員としては昨年度より110人増で、利用者の拡大を図りました。また、平成26年度は新規事業として「地域ニーズ対応事業」の枝葉チップリサイクル事業に取り組み、行政と協議しながら事業としての見込みを立てました。

なお、企画提案事業の最終年度となることから府中町と連携を図りながら、新たな地域ニーズについてアンケート調査を実施し、子育て支援事業として、既存の乳幼児の一時預かり事業(シルバーママサービス)に加え、訪問型支援事業を展開し、産前・産後の子育て家庭への支援を行う事業の立ち上げの準備をしました。

また、新たな地域ニーズの取組みで、教育・観光事業として、くすのきプラザ内に「歴史発見カフェ」を新設し、軽食等の提供とあわせて、観光や食育情

報の提供を行う事業の立ち上げの準備をしました。

(5) 有料職業紹介事業の推進

臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業で、有料職業紹介事業が平成26年10月から開始されたため、請負委任になじまない分野の職種について積極的に事業の展開を図り、4名の会員を民間企業に紹介しました。

(6) 就業機会の拡大と就業場所の確保

会員及び役職員が一緒になって個人、民間事業所、公共機関への積極的な就業開拓を展開し、就業機会の確保のために巡回及び訪問を行い、会員に適した新たな就業機会の開拓に取り組みました。また会員及び発注者の要望に応じたバランスの良い就業確保・提供を目指し、体験就業の場を増やし、未就業者が少なくなるように努めました。その結果、受注件数は昨年より110件増えましたが、実人員就業率は昨年より3.5%低くなりました。

(7) 普及啓発と情報提供

シルバー普及啓発月間に年1回「安芸府中シルバーだより」を発行し、町内全戸数に配布し、またホームページを充実させて、町民にシルバー事業の内容を理解していただくとともに、会員には「事務局だより」を発行して新鮮なセンターの情報提供に努めました。また町内の他機関のイベントや催しに参加して、町民との交流を深め、ボランティア活動とともに、入会説明会参加者が激減する1月～3月にかけて「シルバー会員募集」のチラシを個別配布してシルバー事業の普及啓発を行いました。

(8) 会員に必要な知識・技能向上のための研修の充実

8月に3日間、府中町高齢介護課主催の「介護予防事業就業会員のフォローアップ研修会」に参加し、筋力アップ体操、高齢期の食生活の栄養バランスについて、認知症予防のための脳いきいき生活などについて22名が受講しました。

また、健康マージャン教室の地域指導員養成講座を実施し、11名が検定に合格し介護予防事業の新たな分野での人材育成を行いました。

広島県シルバー人材センター連合会主催の高齢者の方の特性や豊富な経験を活かせる、「子育て支援講習会」をファミリーサポートセンターにもご協力いた

だき、10月から11月にかけて府中町で10日間実施しました。

平成26年12月から平成27年2月にかけて、「公共施設等事務代行（管理業務）に係る研修会」を3回実施し、公共施設等で就業する会員を対象に接遇対応研修会及び交通安全の研修会を実施しました。

女性会員の就業機会の確保を目的に、3月に女性ならではの感性を生かせるグリーンメンテナンス講習会を2日間開催しました。

この他、役員にはシルバー事業の理解を深めていただくため、中国ブロック役職員交流研修会（広島市内）に6名参加していただき、センターが抱えている課題について、問題点とその要因を分析するとともに、改善のための具体的方策の検討等を行うことにより、センターの適正な事業運営及び事業の活性化策について研修していただきました。

(9) 新たな事業・業務への対応

就業形態の多様化に伴い、請負・委任だけでは発注者の要請に応じられない業務が増えています。コンプライアンスも重視し、新たな就業先の確保及び自主財源の比率を高めるため、民業圧迫につながらない臨時的かつ短期的又は軽易な就業拡大に努めました。また、次年度から始まる現役世代雇用サポート事業及び高齢者活躍人材育成事業への取り組みについて、関係機関との調整を行い立ち上げの準備をしました。

(10) ボランティア活動

シルバーの日に合わせて町内の環境美化活動の一環としてくすのきプラザ周辺と本町公園から府中公民館まで清掃・除草を行い、77名の会員が社会奉仕活動を行い、シルバー事業の普及啓発に役立てました。また、グリーンメンテナンス講習会後に、受講者がセンター法面の花壇の手入れをボランティアで活動していただきました。

なお、シルバーママ前の花壇の手入れ、緑のカーテンの栽培を行い、府中町脱温暖化市民協議会主催の緑のカーテンコンテストにおいて「緑の仲間大賞」を受賞しました。

また、不審者から子供を守るため、多くの会員や職員が小学校の登下校の見守り活動に協力しました。